白保魚湧く海保全協議会　令和元年度（2019年度）　活動報告書

2020.4.6 作成

日付	活動	概要	備考
4/1	第11回 海岸清掃 白保海岸		主催：当会
4/7	日弁連シンポジウム 報告、ディスカッション	「海と嶋の観光資源の持続的活用を考える」パネリストとして登壇 会場：石垣市民会館	主催：日本弁護士連合会
5/10	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：4名 座学　サンゴ礁学習　クラス授業	実施：当会 連携：NPO夏花
5/14	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：3名 白保集落内　散策	
5/15	赤土堆積量調査（春季） 白保海域30箇所。SPSS法による海底の赤土の堆積量を測定	実施：8名 最大値は168.9kg/m3。6箇所で明らかな人間活動の影響が見られるランク6。春は特に陸に近いポイントは透明度も悪い。	
5/23	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：4名 プールでのシュノーケリング技術指導	
5/1	第12回 海岸清掃 白保海岸		主催：当会
6/1	第13回 海岸清掃 白保海岸	参加：約150名 もえるごみ6袋、もえないごみ16袋、ペットボトル26袋、発泡スチロール8袋、漁具13袋、ビン4袋、カン4袋、われもの1袋、電球1袋、キケン1袋、ロープ3袋、ロープ10キロ、ブイ大9個、発泡スチロール大1個、冷蔵庫1個、板1枚	主催：当会 白保村ゆらていく憲章推進委員会　NPO夏花
6/10	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：8名 白保海域でのシュノーケリング実習　生物観察	実施：当会 連携：NPO夏花
6/12	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：4名 座学　サンゴ礁学習　クラス授業	
6/17	白保小6年 環境教育支援	生徒：23名　実施：3名 座学　サンゴ礁学習　クラス授業	
7/1	第14回 海岸清掃 白保海岸	参加：17名 もえる2袋、燃えない14袋、ペットボトル17袋、発泡スチロール5袋 、漁具6袋、ビン2袋、カン1袋、われもの1袋、電球、蛍光灯1袋、危険1袋、発泡スチロール大3個、ブイ大4個、プラケース大7個、プラ大4個、ポリタンク1個、ポリドラム1個	主催：当会
7/9	白保小6年 環境教育支援	生徒：23名　実施：8名 白保海域でのシュノーケリング実習　生物観察	実施：当会 連携：NPO夏花
7/16	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：4名 コーラルウォッチ　サンゴの健康調査	
7/26	白保小教員 環境教育支援	参加：教員7名　実施：2名 座学、集落散策	
8/1	第15回 海岸清掃 白保海岸	燃える1袋、燃えない11袋、ペットボトル13袋、発泡スチロール4袋、漁具3袋、缶1袋、瓶2袋、危険ゴミ1袋、漁具大13個、プラケース大4個、発泡スチロール大2個、ポリタンク4個、タイヤ2個、プラスチック大10個	主催：当会
8/2	赤土堆積量調査（夏季）	実施：6名　市民環境ボランティア8名 最大値は89.6kg/m3。7月末の台風によりリーフ内の赤土が攪拌され、轟川河口からの赤土がモリヤマグチ方向に流れ、周囲の数値は高くなっている。	実施：当会 連携：NPO夏花 アースウォッチ・ジャパン
9/1	第16回 海岸清掃 白保海岸	参加：23名 燃えないゴミ9袋、燃えるゴミ2袋、ペットボトル14袋、発砲スチロール7袋、漁具3袋、ロープ1袋、ビン1袋、カン1袋、キケン1袋、われもの1袋、漁具大13個、発砲大5個、プラケース6個、ポリタンク2個、プラスチック棒9本、ドラム缶1本、袋にはいらないロープ約100キロ	主催：当会

10/6	第17回 海岸清掃 白保海岸	参加：大人20名　子ども3名 燃えるごみ 2袋、燃えないごみ 14袋、漁具 1袋、ロープ 1袋、発泡スチロール 3袋、ペットボトル 8袋、ビン 1袋、カン 1袋、危険物 1袋、ブイ大 4個、発泡大 4個、トン袋 1個、コーン 1個	主催：当会
10/29	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：4名 コーラルウォッチ　サンゴの健康調査	
10/31	赤土堆積量調査（秋季）	実施：6名 最大値は95.2kg/m3。全体的に透明度が高く、ランク6を記録したところは1つ。轟川河口部の岸に近い地点E1が、ランク3だったことは予想外。	実施：当会 連携：NPO夏花
11/1	第18回 海岸清掃 白保海岸	参加：大人17名　子ども1名 燃えるごみ 1袋、燃えないごみ 9袋、漁具 2袋、ペットボトル 6袋、発泡スチロール 2袋、ビン 1袋、カン 1袋、キケン物 1袋、ブイ大 6個、発泡大 5個、ウレタン大 1個、クーラーボックス1個、プラカゴ 3個、ロープ10キロ	主催：当会
11/11	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　　実施：5名　　参加保護者多数 インカチ漁体験	実施：当会 連携：NPO夏花
11/16	県民環境フェア 白保ブース出展	県民環境フェア「エコライフ2019 in石垣」 会場：総合体育館　来場者数：3,800名	主催：沖縄県
12/1	第19回 海岸清掃 白保海岸	参加：大人29名　子ども6名 燃えるごみ 3袋、燃えないごみ 21袋、ペットボトル 29袋、発泡スチロール 6袋、漁具 5袋、ビン 3袋、カン 1袋、ロープ 2袋、電球 1袋、浮き玉大 11個、発泡スチロール大 21個、巨大な浮き 1個、プラ大 5個、ゴムシート大 1枚、ガスタンク 2個	主催：当会
12/7	里海カンファレンス 事例発表	「人づくり」「村づくり」地域に根ざした里海づくり 里海カンファレンス in 恩納村 2019 会場：沖縄科学技術大学院大学（OIST）	主催：NPO里海づくり研究会議　恩納村漁協　恩納村 ほか
12/8	サンゴ礁保全シンポジウム　事例発表	「地域を支える人づくり　白保集落のサンゴ学習」 会場：沖縄県立博物・館美術館（おきみゅー）	主催：沖縄美ら海財団
12/28	第20回 海岸清掃 白保海岸	参加：約30名 燃えるごみ 1袋、燃えないごみ 9袋、ペットボトル 9袋、発泡スチロール 2袋、漁具 4袋、ビン 1袋、カン 1袋、われもの 1袋、危険物 1袋、ブイ大 3個、発砲ブイ大 1個、プラ大 5個、ガスタンク 1個、鉄パイプ 5本	主催：当会
1/13	赤土堆積量調査（冬季） 白保海域30箇所。SPSS法による海底の赤土の堆積量を測定	実施：7名 透明度が高い印象だったが分析したデータは想像以上に悪い数字が出ていた。だが、例年の冬の調査と比較した場合には良い数字が出ている。冬の調査としては海水温は高め。	実施：当会 連携：NPO夏花
1/27	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：1名 学習発表支援	実施：当会 連携：NPO夏花
2/1	第21回 海岸清掃 白保海岸	参加：大人13名　子ども2名 燃えるごみ 1袋、燃えないごみ 12袋、ペットボトル 7袋、漁具 3袋、発泡スチロール 8袋、ロープ 2袋、ビン 1袋、缶 1袋、われもの 1袋、電球 1袋、ブイ大 6個、発泡スチロール大 5個、プラスチックバケツ 5個、プラスチックケース 2個、プラスチック棒大 11本、ゴム板大 2個、椅子 1個	主催：当会
2/12	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：1名 座学　漂着ゴミ　クラス授業	実施：当会 連携：NPO夏花
2/14	白保中2年 環境教育支援	生徒：24名　実施：1名 学習発表支援	実施：当会 連携：NPO夏花
2/16	しらほゆらてぃく祭り協力		主催：白保公民館・ゆらてぃく祭り実行委員会
3/1	第22回 海岸清掃 白保海岸	参加：40名 燃えるゴミ 1袋、燃えないゴミ 8袋、ペットボトル 21袋（約1050本）、発泡スチロール 6袋、漁具 8袋、ビン 3袋、カン 3袋、電球 1袋、危険ゴミ（割れ物含む）1袋、ブイ大 77個、発泡スチロール大 11個、ポリタンク 2個、ガスタンク 1個、プラカゴ 1個、プラスチック大 5個、ポリバケツ 1個、ロープ塊 2キロ、鉄パイプ 3本盛	主催：当会
3/16	故郷を離れる卒業生とシュノーケリング	高校3年生 7名　白保海域 どこへ行っても誇れる自分たちが育った海を感じて欲しいと実施	実施：当会 連携：NPO夏花
3/24	沖縄県 第2回地域づくり団体表彰 大賞授賞	環境保全と地域活性化を両立させる取り組みとして、他地域のモデルとなると評価。先人たちが守ってきたものをつないでいく取り組みが結果的に地域づくりにもなっていた。	主催：沖縄県

漂着ゴミは耐えない
毎月1日に海岸清掃を実施

年末に実施した海岸清掃
参加者の半数が新成人を迎える若者

年4回実施　海底の赤土堆積調査
白保海域30箇所の砂を採取

調査結果の考察　最大値は168.9kg/m3
サンゴ礁環境は決して健全とは言えない

11/11 白保中学　インカチ漁体験

インカチ漁でとれた魚　ウロコを取りさばいて食した

12/7 OISTで行われた里海カンファレンスで
地域に根ざした里海づくりの事例発表

3/16 自分たちが育った海を感じて欲しく、
白保を離れる高校卒業生とシュノーケリング

白保魚湧く海保全協に大賞

県地域づくり団体 満慶まつり実行委は奨励賞

県地域づくり団体表彰で大賞を受賞した白保魚湧く海保全協議会の新里昌央会長（左）と奨励賞に選ばれた満慶まつり実行委員会の南風野哲彦実行委員長＝24日午後、県庁

【那覇】地域への貢献度が高く、創意工夫された地道な地域づくりに取り組む団体を表彰する「県地域づくり団体表彰」の大賞に石垣市の白保魚湧く海保全協議会（新里昌央会長）、奨励賞に満慶まつり実行委員会（南風野哲彦実行委員長）が選ばれ、24日午後、県庁で表彰状を受けた。

2005年に設立した同協議会は、白保集落の住民有志が10年にわたり環境調査や環境教育、地域組織づくりに取り組み、サンゴ保全や生活文化などの体験活動を活用した着地型観光を実現。環境保全と地域活性化を両立しており、他地域の模範となっている。

09年に設立した同実行委は、川平地区の児童生徒の派遣費捻出支援を目的とした満慶まつりを同年から開催。学校や地域、企業が協働して開催し、学校のみならず地元福祉団体にも収益金の一部を寄付。経済効果や地域活性化に大きな影響を与えている。

新里会長（39）は「地道な活動が実を結びうれしい。先人が守って来たものをつないでいく取り組みが結果的に地域づくりにもなっていた。今後も継続し、人材づくりも大事にしていきたい」、南風野実行委員長（55）は「これまでしてきたことが評価された。今後も続けて、地域の伝統を継承していく場になれば。地域に貢献していきたい」とそれぞれ抱負を語った。

同表彰は17年度に創設され、今回で2回目。県内から大賞1団体、特別賞2団体、奨励賞3団体が選ばれた。

3/24 沖縄県地域づくり団体表彰　大賞受賞表彰式 県庁にて
2020.3.25 八重山毎日新聞

サンゴ礁文化の保全・継承をめざして

白保魚湧く海保全協議会は、白保の海とその周辺の自然環境・生活環境の保全・再生とサンゴ礁資源の持続的な利用による地域振興の両立を図ることを目的とし、2005年に設立。なお、本会はあくまでも白保サンゴ礁環境の維持・向上とその利用による白保地域の活性化を目的としたものであり、政治的活動を目的とするものではない。